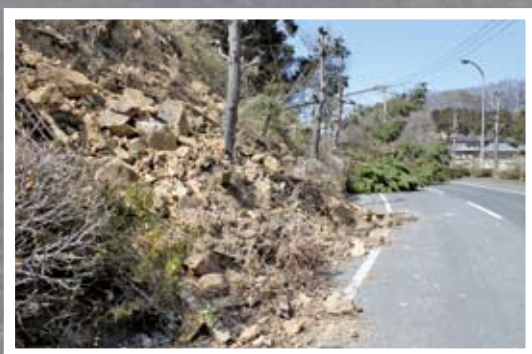




3月11日東北地方太平洋沖地震が発生し
常陸大宮市でも震度6弱を観測しました。
市内の災害状況等については4月号で詳
しくお伝えします。

主な内容

P2～3

常陸大宮市総合計画後期基本計画の
策定に係る住民アンケート調査の結果
をお知らせします

P4

平成23年4月から第2次常陸大宮市
行政改革大綱がスタートします

P5

市民バスの運行が見直されます

P6～10

市ってニュース

P11

ふるさと見て歩き

常陸大宮市総合計画後期基本計画の策定に係る 住民アンケート調査の結果をお知らせします

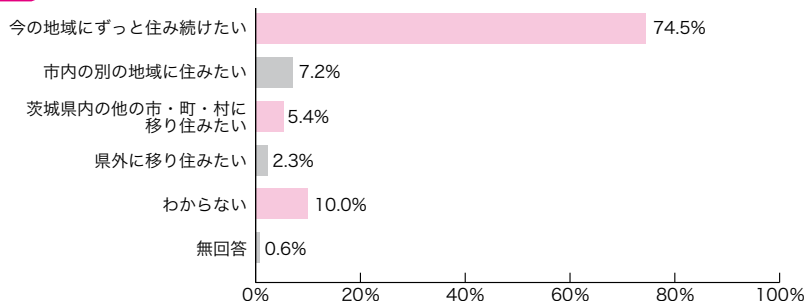
市では、常陸大宮市総合計画後期基本計画を策定するにあたり、広く市民の皆さんからのご意見をお伺いするため、平成22年12月に住民アンケート調査を実施しました。

アンケートは、住民基本台帳を基に市内全域から抽出した3千人を対象に、郵送にて実施し、回収票数1329票、回収率44.3%でした。住民アンケート調査の結果がまとまりましたので概要についてお知らせします。住民アンケート調査結果については、総合計画策定に反映させていただきます。



定住意向について

問 あなたは今後とも常陸大宮市に住み続けたいと思いますか。



回答者の8割を超える方が、今後も常陸大宮市に住み続けたいと答えています。

身近な生活環境について

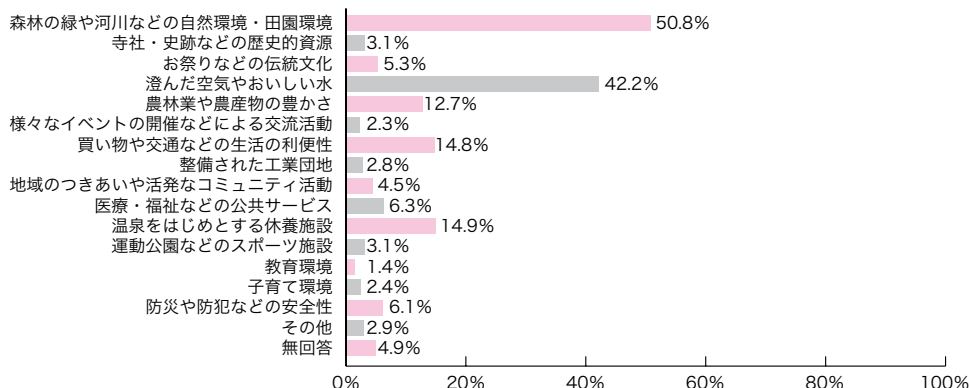
問 あなたはお住まいの地域の現状について満足していますか。

満足度の高かったことは、ごみの収集体制、消防や防災体制、水道の整備状況、森林や河川などのきれいさ、風景の良さなどがあげられています。

その一方で、満足度が低かったことは、バス・鉄道など公共交通の整備、農林業や観光の振興、公園や広場の整備、市道など生活道路の整備状況などとなっています。

地域の魅力や将来の望ましい姿について

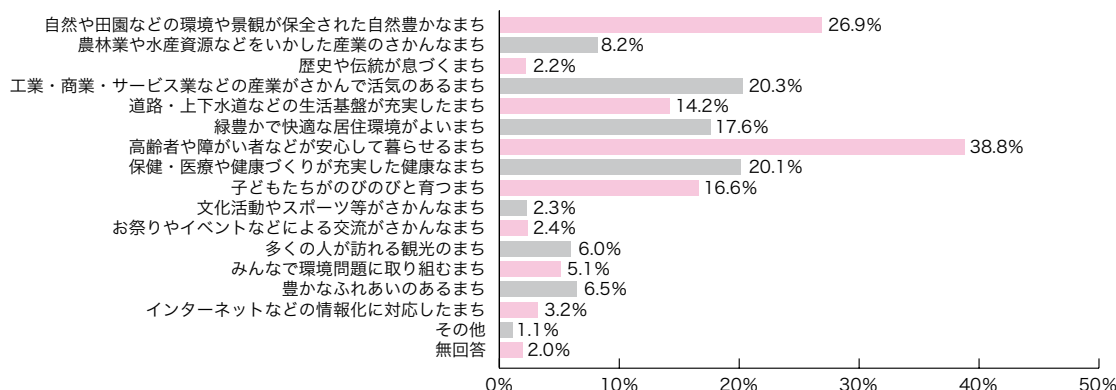
問 お住まいの地域について、素晴らしいと思うこと、誇りに思うことはどんなことですか。
(複数回答)



「森林の緑や河川などの自然環境・田園環境」「澄んだ空気やおいしい水」「温泉をはじめとする休養施設」「買い物や交通などの生活の利便性」が上位にあげられています。

問

お住まいの地域が将来どうなると良いとお考えですか。(複数回答)



「高齢者や障がい者などが安心して暮らせるまち」が一番多く、「自然や田園などの環境や景観が保全された自然豊かなまち」「工業・商業・サービス業などの産業がさかんで活気のあるまち」「保健・医療や健康づくりが充実した健康なまち」が続きます。

今後のまちづくりについて

問

今後、市全体として特に重点的に取り組むべきことは何であるとお考えですか。
多かったものを分野ごとに紹介します。

①保健・医療

救急医療体制の充実
生活習慣病予防と健康管理の充実
地域医療体制の充実

②福祉

高齢者福祉の推進、社会保障の充実
児童福祉の推進

③自然環境

環境保全に配慮したまちづくりの推進
自然環境の保全・育成、地球温暖化対策の推進

④生活環境

防犯対策の充実、人にやさしいまちづくり
市街地・集落地の整備・景観づくり

⑤交通・都市基盤

生活道路の整備、公共交通の整備
幹線道路の整備

⑥産業

農業の振興、勤労者福祉の充実
商業の振興

⑦教育・文化

学校・家庭・地域の連携
学校教育の充実

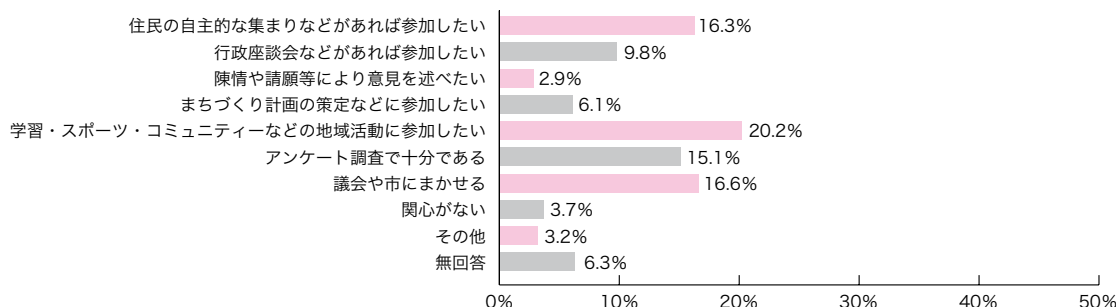
⑧自治・まちづくり

市民と行政との協働の推進
地域コミュニティの推進、人権の尊重

市民のまちづくりへの参加について

問

あなたが、今後の市政への参加について、どのような考えをお持ちですか？



約8割の方が、市政やまちづくり活動への参加を希望していて、特に「学習・スポーツ・コミュニティなどの地域活動」や「住民の自主的な集まり」への参加を多く希望しています。

■問い合わせ先■ 企画課 企画調整グループ ☎52-1111 (内線323)

平成23年4月から 第2次常陸大宮市行政改革大綱が スタートします

市では、平成18年3月に常陸大宮市行政改革大綱を策定し、住民サービスの向上を始め、事務事業の見直しによる効率的な行政運営など、一定の成果を上げていますが、地方分権の流れはさらに進んでいます。

全国的な少子高齢化の進行や厳しい財政状況に対応し、総合計画の具体的な事業推進を図るため、第2次常陸大宮市行政改革大綱及び第2次常陸大宮市行政改革大綱実施計画（平成23年度から平成27年度）を策定しました。その概要をお知らせします。

基本目標

自立と協働による 行政経営の確立

第2次常陸大宮市行政改革大綱では、基本目標に「自立と、協働による行政経営の確立」を定め、行政運営から行政経営への転換を目標に取り組みます。

なお、基本目標を実現するため、5つの基本方針を設定しています。

基本方針1

市民との協働によるまちづくり

地域の個性や特色を生かした、地域にふさわしいまちづくりを推進するため、市民と行政の役割分担を明確にし、市民と行政による協働のまちづくりを推進します。

【まちづくり提案制度の創設】

市民からまちづくり等の提案を公募することによって、市民参画・市民との協働体制の確立を図り、協働のまちづくりを推進します。

【市民満足度調査の定期的な実施】

アンケート調査等による市民満足度調査を実施し、市民の行政サービスに対する意向を把握し、行政運営に反映していきます。

基本方針2

効果的・効率的な事務事業の推進

新たな行政課題や社会経済情勢の変化に積極的に対応し、最少の経費で最大の効果を上げるため、積極的に事務事業の見直しを行い、簡素で効率的な行政経営を推進します。

【事業別行政コスト計算書の作成

・公表】

人的サービスや給付サービスと

いった資産形成につながらない行政サービスの提供に、どれだけのコストが掛かっているかを把握し、コスト意識の醸成と市民への説明責任を果たします。

【人件費の抑制】

平成22年度を初年度とする定員適正化計画に基づき、適正な組織の維持と必要最小限の職員採用を計画的に実施します。（平成27年4月1日までに職員を56人削減）

基本方針3

自立した財政基盤の確立

将来にわたって安定した行政経営を行えるよう企業誘致の推進と市税等の自主財源の確保に全力で取り組みます。

また、中長期的財政展望に立った財政収支見通しを作成し、市債の発行を抑制しつつ効果的な財政運営に努めます。

【収納対策の強化】

受益者負担の原則に基づき、市税等の収納対策を強化します。

【遊休財産の処分】

売却可能な遊休財産（未利用地）の売却処分を行います。

基本方針4

新たな行政需要に対応出来る

執行体制の確立

簡素で効率的な組織を基本に、市民に分かりやすく、機能的な組織体制づくりを進めます。

また、質の高いサービスを提供出来る行政経営を推進するため、職員の育成に取り組みます。

【効率的な組織機構の見直し】

定員適正化計画を踏まえ、組織機構検討委員会において、スリムで効率的な組織・機構の見直しを行います。

【人材育成の推進】

人材育成基本方針に基づき、階層別研修等を通して、それぞれの職階に応じた職員の能力向上を推進します。

基本方針5

公正の確保と透明性の向上

行政手続制度を適正に運用するとともに、行政情報の積極的な提供、監査機能の充実・強化を図ります。

【施策の把握と推進】

施策の推進にあたっては、市民の意思の把握と市民へ説明に積極的に取り組みます。

「」は第2次常陸大宮市行政改革大綱実施計画の中で、新規に取り組む事項等を記載しています。

効率的な行政経営に向け、積極的に行政改革に取り組んでいきます。

■問い合わせ先■

企画課 行政改革推進室

☎52-11111 内線323
行政改革推進グループ

市民バスの運行が見直されます

平成18年7月より運行している市民バスについて、平成23年4月から市民バスの運行を見直すこととなりました。

見直しの内容

利用者数の少ない便などが減便となります。
美和診療所移転に伴う変更があります。

見直しの内容は各地域、各コースによって異なりますので、新しい「市民バス運行表」でご確認のうえ、ご利用ください。

○「市民バス運行表」の設置場所

- ・市民バス車内
- ・市役所本庁（1階 総合案内、3階 企画課）
- ・各総合支所市民福祉課
- ・市社会福祉協議会本所、各支所



▲地域ごとに5種類の運行表があります

■問い合わせ先■

企画課 企画調整グループ ☎52-1111（内線323）

各総合支所市民福祉課

山 方 ☎57-2121 美 和 ☎58-2111 緒 川 ☎56-2111 御前山 ☎55-2111

市知ってニュース

茨城県功労者表彰

常陸大宮市消防団の岡山勝彦さん（小田野）が、茨城県知事より功労章を授与されました。



岡山さんは、36年余にわたり、災害現場において消防業務に精励するとともに、指導者として消防団員の育成や技術の向上に努められるなど、さまざまな功績が認められ、今回の表彰となりました。

現在は、常陸大宮市消防団団長として、安全で安心な住みよいまちづくりのためご尽力されています。

自治功労者表彰

浅川功基さん（上大賀）が茨城県市長会長より表彰を受けられました。



浅川さんは、平成12年6月に大宮町代表監査委員に就任され、合併後も常陸大宮市代表監査委員として平成20年4月まで、公平・公正な立場で監査業務にあたられました。

また、平成22年4月からは上大賀地区の区長としてリーダーシップを発揮し、行政と地域のパイプ役となり、地域コミュニティづくりに尽力され、現在もご活躍されています。

千葉国体陸上競技での優勝報告に来庁

平成22年10月23日から25日にかけて、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で行われた「2010全国障害者スポーツ大会ゆめ半島千葉国体」に出場した高校3年生の山崎光さん（泉）が、2月中旬、大会の結果報告に来庁しました。

山崎さんは、陸上競技の50mとスラロームに出場し、2種目で優勝を飾り、50mでは大会記録を、スラロームでは大会新記録を樹立しました。



▲山崎さん：左から2番目

文化財を災害から守る！

1月26日は文化財防火デーです。昭和24年1月26日、奈良県の法隆寺金堂の貴重な壁画が焼損する火災が起きました。これを機に、翌年の昭和25年に文化財保護法が制定され、昭和30年より、火災があつた1月26日が文化財防火デーと定められました。そして、この日の前後に、毎年全国的に文化財防火運動が展開されています。

常陸大宮市においても、教育委員会と消防本部が合同で、市内合計38カ所の文化財所有・管理者を訪問し、消防設備の点検や防災指導を実施しました。



国民共有の貴重な財産である文化財を火災等から守るため、今後市民の皆さんのご協力をよろしく願います。

美和地域で御神宝の製作

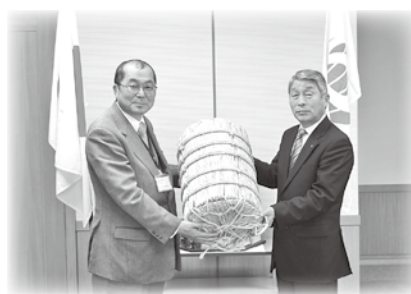
美和地域の上檜沢に住む辻徹さんは、平成8年から同地区に工房を構え家具や漆器等の木工製品作りを行っています。

その辻さんが、平成25年に行われる伊勢神宮の式年遷宮で新宮へ納められる御神宝の一つを製作することになり、その製作風景の撮影が、1月下旬、同工房で行われました。静まり返った工房での作業と辻さんの真剣なまなざしに、撮影する側にまで緊張が伝わってきました。



茨城みどり農協から お米の寄贈

1月27日、市内の小中学校の給食一日分となる精米400キロ「奥久慈の恵うまかつべ」が、茨城みどり農協から市へ寄贈されました。このお米は、常陸大宮市と大子町で生産されたもので、地元の農産物



▲左から三次市長、柏盛幸組合長

手作りのつるしびな

写真のひな飾りは、山方地域の根本肇さん宅のもので、数えきれないほどのつるしびなは、ほとんどが肇さんの妻政子さんの手作りだそうです。

これらを飾り始めたのは約4、5年前。庭の入口には「ご自由に見てください」の看板が掛けられていて、家の方が不在の時でも、ガラス越しに見ることが出来ます。



▲山方小学校1年生の給食の時間

「今日のご飯はいつもよりおいしいね」

の良さを知り、食の安全と安心そして環境について考える機会になればとの願いを込めて寄贈されたものです。これらは、2月17日には山方・美和地域の小中学校の給食で、24日には大宮・緒川・御前山地域の小中学校の給食で提供され、児童・生徒達は地元のおいしいお米を味わいました。



▲エコ活動を写真等で紹介する
エコ展示コーナー

「日」ろのエコ活動！ 学校・企業の取り組み

1月29日、緒川総合センターで常陸大宮市エコライフフォーラムが開催され、約300人の方が会場を訪れました。

事例発表では、緒川小学校と御前山小学校そして未来工業株式会社茨城工場による環境活動が報告され、日頃行われているさまざまな取り組みが紹介されました。

そして、会場内には、電気自動車やリユース（再利用）品の展示、エコ活動を写真で紹介するコーナーが設けられ、一人ひとりが環境保全に意識を持ち、地域で協力して取り組む

むことの大切さを改めて認識する機会となったのではないだろうか。

また、茨城県では環境に関する意識の啓発のため、コンテスト等が実施されています。

平成22年に実施された「ストップ！地球温暖化いばらき緑のカーテンコンテスト」と「大好きいばらきエコチャレンジ2010」に入賞・入選された方々を紹介します。

■ ストップ！地球温暖化いばらき緑のカーテンコンテスト
(敬称略)

◎普及部門

優秀賞 村田小学校

努力賞 御前山小学校

◎生育部門（個人の部）

特別賞 木村 秀子（東野）

◎生育部門（団体の部）

特別賞 イオンリテール㈱

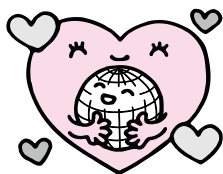
イオン常陸大宮店

■ 大好きいばらきエコチャレンジ2010（家庭部門）

◎個人コース（一人当たりの電気

使用量部門）

第9位 安藤 千真（東富）



農業農村

シンポジウムで表彰

2月1日、水戸市の茨城県総合福祉会館で農業農村シンポジウム2010が開催され、土地改良功労者表彰と茨城県美しい水と土づくり優良活動表彰が行われました。

土地改良功労者表彰は、長年土地改良の推進に携わり、事業の推進に顕著な功績があつた個人等に贈られるもので、県内では4人の方が受賞され、市内からは玉川沿岸土地改良区理事長の梶山肇司さんが受賞されました。



▲表彰を受ける梶山さん

梶山さんは、県営ほ場整備事業の玉川中流地区及び、塩田地区の事業当初の同意取得から事業完了までの23年間の推進活動や農業農村基盤づ

くり尽力され、その功績が認められての表彰となりました。

また、「農地・水・環境保全向上対策」や「中山間地域等直接支払制度」に取り組む優良な活動組織と集落に贈られる第3回茨城県美しい水と土づくり優良活動表彰では、県内で14の団体が受賞し、市内からは次の団体が受賞されました。

■ 農地・水・環境保全向上対策部門
優秀賞…岩崎地域資源保全向上活動組織

代表 助川寛一さん

■ 中山間地域等直接支払制度部門

優秀賞…大岩D集落

代表 堀江鶴治さん

岩崎地域資源保全向上活動組織は、毎年、独自に水路や農道の補修工事を行うなど農業用施設の点検・管理を徹底し、適切な管理を行っています。さらに、遊休農地を借りて、子ども会や高齢者クラブ等と共同で景観作物を植栽することで、地域内のコミュニケーションづくりを図られています。

大岩D集落は、遊休農地で栽培したそばを使い、地元の公民館で集落の住民を対象とした「そば打ち講習会」や「収穫祭」を開催し、集落の農家と非農家が一体となって作業を行い、農村社会におけるコミュニケーションづくりに努められています。

伝えたいあなたへ～青春応援メッセージで入賞

2月9日、茨城県立県民文化センターにて開催された「平成22年度青少年健全育成茨城県推進大会」において、「青春応援メッセージ」優秀作品表彰式があり、青少年の部で大宮小学校6年の大高紗英さんが最優秀賞、一般の部で山崎由美さん（野田）が優秀賞に選ばれ表彰を受けました。

この青春応援メッセージは、(社)青少年育成茨城県民会議が、日頃、青少年が想っていることや友達などの同世代の人へ伝えたいこと、大人から青少年に伝えたいことなどを募集したもので、青少年の部では6,572作品、一般の部では169作品の応募がありました。



▲左：大高さん 右：山崎さん

大高紗英さんの作品

「ありがとう」

ありがとうって言われると心があつたまる。

ありがとうって言う心が明るくなる。

ありがとうって言うことばはみんなを明るくするんだね。

山崎由美さんの作品

「道」

心が風邪をひいたら「ゆっくり休めばいい。」

心が元気になったら「ゆっくり走ればいい。」

長い人生、焦らず自分のペースで。



▲古い道具や古文書など、多くの貴重な資料を展示

企画展「水戸の紙と生産と流通と消費」が開幕しました

2月15日、歴史民俗資料館の企画展が開幕しました。

「水戸の紙」とは、江戸時代に水戸領内で産出された紙のことです。40数種類の紙がすき出されたことが分かっています。その中の代表が西ノ内紙と程村紙です。

江戸時代の中頃、関西で出版された諸国の名産品について記した本の中に、全国からすき出される数百種にも及ぶ紙の中で、最も上質な紙5種のうちに、西ノ内と程村が上げられています。企画展では、西ノ内紙が、紀州徳川家や尾張徳川家、伊達家、佐竹家の藩主が使う御用紙として納入されていることを示す資料も見ることが出来ます。

また、楮の加工や紙すきに使われた古い用具とともに、紙見本として保存されていた幕末にすかれたみごとな紙の実物も展示しています。これらの紙には、紙の種類やすいた人の名前、小田野、鳥子、野沢、高部の仲河戸・東河戸・入檜沢・大貝など紙がすき出された村の名も書かれています。皆さんの祖先様がすいた紙があるかもしれません。

これらの紙がどのように江戸へ運ばれ、どのように使われたか、また、様々な加工を施されて、人々の生活に潤いをもたらしたか、ぜひ資料館に足を運んでご覧ください。紙の新たな可能性を実感されることでしょう。

企画展は4月10日まで開催。休館日は月曜日です（ただし、春分の日3月21日は開館）。楮の栽培・加工、西ノ内紙製造の工程を詳細に記録した映像を館内で随時放映。来館者にはオールカラー16頁の展示解説を差し上げています。



▶和紙で作った作品を展示し、写真パネルにコメントを書き込んで「コウゾを育てて和紙を漉こう！」の活動も無事終了

みんなで作ったたくあん おいしいよー！



写真は大宮幼稚園のお昼の様子です。園児が、はしでつまんで見せてくれているのは「たくあん」。家から持ってきたお弁当と一緒に食べています。

実はこのたくあんは手作り。園の畑に年長さんが9月に種をまき、年中さんが12月に収穫し、園の先生が12月下旬にたで漬け、みんなで役割分担して作ったそうです。

園児達は、手作りのたくあんが出されるお昼の時間を楽しみにしています。



音楽万歳！

2月19日、緒川総合センター大ホールで、市内7つの中学校と2つの高等学校の生徒約180人が参加し「第3回Music Festival」音楽万歳〜が開催されました。

第1部は学校ごとの吹奏楽部による演奏、第2部は学年ごとの合同演奏が行われ、迫力ある演奏が披露されました。

また、プログラムの最後に行われた合唱奏は、楽器と歌声が重なり合い一つになって、心に残る演奏となりました。



いっしょにまちづくり

茨城大学との交流に期待

河野 達之さん

常陸大宮市では、平成17年以来茨城大学と地域連携事業を進めている。市内の各種事業に大学生が訪れたり、市民が大学の行事等に参加したりしている。

平成20年に、オーストラリアの生徒達が市内にホームステイした折、引率した8人の先生を会津若松の鶴ヶ城に案内した。その時8人の大学生が参加し通訳を受け持ち、国際交流協会の会員達との交流を深めることが出来た。

また、平成23年の正月に行われた国際交流フェスティバルに、アジアからの留学生が大勢参加し、各ブースで日本文化に触れ、参加者と親しく交流した。

今後も国際交流に限らず、市内の各種事業を通して茨城大学との交流活動が、さらに活発になることを期待したい。

・市と茨城大学とは相互に連携協力し「豊かな自然と調和した安心・快適な活力のまち」を目指して各事業に取り組んでいます。



訓練は、茨城県北地方にマグニチュード7の大規模な地震が発生し、市内でも震度6強を観測、建物の崩壊や火災等の被害が発生しているとの想定で実施されました。

地域住民の消火器による初期消火訓練や応急担架の作成訓練等の他、ドクターヘリによる運用訓練や防災

常陸大宮市防災訓練実施

2月20日、美和中学校を会場に、市内の防災関係機関、消防団員、学校、PTA及び地域住民等併せて約530人が参加し、防災訓練が実施されました。



航空隊による救助訓練も行われ、参加者は本番さながらの訓練に真剣に取り組んでいました。



平成22年10月1日現在で実施しました国勢調査にご回答いただきありがとうございました。

常陸大宮市の人口速報集計結果をお知らせします。

常陸大宮市の人口(平成22年10月1日現在)

人口総数 45,177人

世帯数 16,082世帯

国勢調査の結果は、国や都道府県・市区町村で行う行政施策の他、福祉政策や防災対策など私達の暮らしのために活用されます。

平成22年国勢調査の情報はここから

いばらき統計情報ネットワーク

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/>

国勢調査 e-ガイド

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/kouhou/index.htm>

■問い合わせ先■

総務部企画課情報・広報グループ

☎52-1111 (内線382)

移動市長室開設

2月21・24・25日に、移動市長室を市内5地域で開設しました。20年度から実施している移動市長室は、市政を身近に感じていただくことを目的として開設しています。移動市長室は、市民の皆さんの声を市政に生かしていくため、今後も継続して開設していきます。



▲美和総合支所での懇談の様子

知って得する 消費者情報⑦

クリーニングトラブルに遭ってしまったら

クリーニングに出しておいたジャケットやブラウス。「さあ、着よう」と思ったら染みが出来ていた、こんなことはないですか？

もしトラブルに遭ってしまったら、なるべく早めにクリーニング店に申し出ましょう。時間が経つと解決が困難になる場合があります。

トラブルを回避するためには、クリーニングに出す時と受け取った時に衣類の状態をカウンターで十分にチェックすることが重要です。

クリーニングに出す時の注意について

- ・染みや汚れの場所や原因を伝えましょう。
- ・特殊な装飾ボタンや付属品ははずしておきましょう。
- ・特殊な加工や素材で注意して欲しい点があれば伝えましょう。
- ・ポケットの中に忘れ物がないか確認しましょう。



万一、クリーニング店の責任による事故が起こった場合、SマークやLDマークを掲示している店では、クリーニング事故賠償基準を参考にして賠償されます。ただし、受け取ってから6カ月以上経過した場合は、支払いを免れる規定がありますので、注意しましょう。

Sマーク

厚生労働大臣認可の標準営業約款に基づく営業店

LDマーク

全国クリーニング生活衛生同業組合連合会への加盟店

困った時は消費生活センターに相談してください。

■茨城県消費生活センター

☎029-225-6445

■常陸大宮市消費生活センター

☎52-2185 (直通) (本庁商工観光課内)

大岩・三輪神社を
まえた紙問屋

◇藩主の崇敬篤く

大岩地区は、緒川地域の北西端に位置し、栃木県那須烏山市に接しています。ここ大岩の鎮守は三輪神社です。その名のとお

おり、奈良県にある三輪神社（大神神社・おおみわじんじや）を勧請し

てきた神社で、もとは国神社でしたが、一村一社制を進めた水戸藩二代藩主徳川光圀により、元禄九年（一六九六）に大岩村内の小社二十一社を合祀して三輪神社一社にまとめられました。光圀は「助さん」として知られる家臣佐々宗淳に命じ



▲三輪神社社殿

て大和国（奈良県）三輪山に人を派遣し、杉の実を採取し、この地で育てたものを境内に植林したとされます。

光圀は「諸国漫遊」とは行かないまでも領内巡視には力を入れていて、当市域を中心とする水戸藩北西山間部に九度にわたって巡村しています。その途次に寺社を巡見して寄進をしたり、社殿や仏像などに修理を加えたりしています。

その後、奈良の大神神社からもらされた杉は鎮守の森として生長していききました。一方、社殿は寛延三年（一七五〇）に街道沿いに遷した時に建て替えられました。拝殿内にはそのときの棟札の写しと思われる額が掛けられています。これによれば、建て替えの出資者（檀那）というは「水戸宰相宗翰公」つまり五代藩主宗翰であることが分かります。

それから四十年たった寛政三年（一七九一）には宗翰の子で六代藩主治保が檀那となって拝殿の修築を行いました。治保は歴代藩主の業績を非常に大切にしました。それらを踏まえて農政政策や庶民への福祉に手厚い保護を加えたことがその事績からうかがわれます。熊本藩細川家や米沢藩上杉家など「名君」とうたわれた大名と親交を持ち、彼らの政治姿勢について積極的に学んでいたようです。光圀と斉昭に代表される水戸藩主ですが、治保も「名君」として領内各地に足跡を残しました。

◇大岩村の顔役たち

五代・六代藩主がかかわった二度以外にも幾度かの修築がありました。が、村側でそれを差配したのが庄屋や組頭を務めた竹内源助や佐藤善次衛門、田沢氏、岡崎氏、広木氏といった諸家でした。

江戸時代の大岩は周辺諸村とともに和紙の生産、出荷が盛んな地域でした。水戸藩の財政収入の三分の一を占める紙及び紙の原料となる楮は、当市北西部と大子町南部、栃木県的那須烏山市、那珂川町を中心とする地域で生産され、出荷されました。「日本一」と評される最高級の楮（那須楮）です。かれる当地の紙



▲裏面に6代藩主治保の名がある寛政3年の石碑



▲5代藩主宗翰の名がある寛延3年棟札の写し

は江戸時代には高値で取引されました。当時、紙すき農民から紙を買い集め、水戸藩や江戸、大坂といった大都市に出荷していた紙問屋が当地にも数多くありました。紙は藩内屈指の富豪をこの山村から生み出したのです。隣接する小舟村には幕末の安政二年（一八五五）頃には紙会所がおかれ、近隣の村々からすき出される紙を紙買方役人が一手に買い集め、江戸へ売りさばっていました。小舟村の紙会所はその拠点となった場所です。

三輪神社の寛延三年棟札の写しと、寛政三年の修築記念碑に名を連ねる竹内家と佐藤家は、まさにその時代を最前線で生きた地元紙問屋でした。

藩に公許された紙問屋は、多い時で二十軒ほどになりましたが、竹内家は最初に公許された五軒のうちの軒で、早くから江戸とかかわりを持ちました。明和元年（一七六四）に江戸紙問屋村林善兵衛の店で、日本各地で産する紙を書き上げた資料を写し、さらに自らの知見を織り交ぜて『諸国紙日記』（寛政五年・一七九三）を著しました。その後、嘉永七年に常陸太田の沼尻清兵衛が補足して現在の形になっています。江戸時代に流通していた紙についてわかる貴重な史料として紙の歴史を研究する際の基本文献の一つとなっています。

救急車はタクシーではありません!!

年々、全国的に救急車の出動件数が増加しています。常陸大宮市消防本部管内でも平成22年中は1,809件の救急出動があり、過去最高の出動件数となりました。そのようななか、全国的に救急車をタクシー代わりに要請する不適正利用例も多く発生しています。救急車は、けがや急病などで緊急に病院に搬送しなければならない傷病者のためのものです。緊急ではないのに救急車を要請したために、出動可能救急車が不足してしまうと、本当に救急車を必要とする事故や急病人が発生した場合に救急車の到着が遅れ、救える命が救えなくなる恐れがあります。

救急車の誤った利用例 (不適切な利用の実例)

- ◆緊急性のある症状ではないが、救急車だと早く診察してもらえる。
- ◆今日、受診予約を入れているので救急車で連れて行ってほしい。
- ◆病院へ行きたいが、自家用車がない。
- ◆タクシーだとお金がかかる。
- ◆診察が終わったあと、自宅まで送って欲しい。

考えてみてください！

もし、あなたや家族が、突然意識がなくなり倒れてしまい救急車を要請した時に、誤った利用による要請で出動可能な救急車が無かったら、どう思われますか？・・・



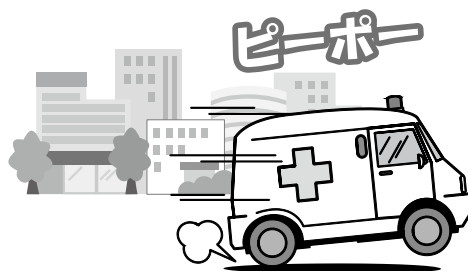
救急車は緊急のための自動車です

119番通報時「サイレンを鳴らさないで来てください」と言われることがあります。

救急車は、道路交通法により、「緊急車両」として認められ、条件として「赤色灯を点灯させ、サイレンを吹鳴する」となっています。従って、サイレンを鳴らさなければ「緊急車両」ではありません。

サイレンを鳴らさないで 出動する事は出来ません！

緊急車両である救急車を呼ぶということは「一刻も早く来てほしい」「一刻も早く医療機関へ連れて行ってほしい」等、緊急の時です！



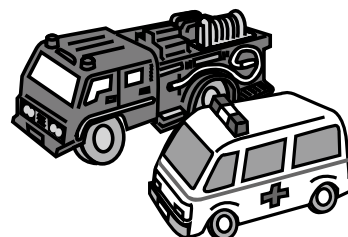
救急隊支援（P A連携）出動

消防本部では、救命率の向上・被害の軽減を目的とした、消防隊の救急隊支援（P A連携）出動を行っています。

救急支援出動時に、消防車がサイレンを鳴らして走行します。火災と間違わないようご注意ください。

—消防車のサイレン音で区別出来ます—

火災の場合・・・サイレン音『ウ〜ウ〜』+鐘の音『カンカン』
火災以外の場合（P A連携、救助など）・・・サイレン音『ウ〜ウ〜』



～つけっぱなしは大敵！～

長時間使用しない時はプラグを抜く

年間で電気**107.45kw/h**の省エネ。**約2,360円**の節約になります。

保温する場合は低めの温度で保温しましょう！必要な時に、その都度再沸騰させると省エネになります。

※ポットに満タンの水2.2Lを入れ沸騰させ、1.2Lを使用した後、6時間保温状態にした場合と、プラグを抜いて保温しないで再沸騰させて使用した場合の比較です。

データ出所：(財)省エネルギーセンター等の測定結果



健康は食から

酸素の運び屋さん「鉄」

赤血球のもとになる鉄は、赤血球の成分であるヘモグロビンの構成成分です。ヘモグロビンは、肺に取り込んだ酸素を、血液を通して全身の細胞に送り届ける役割があるので、鉄不足が続くと、酸素が十分に行きわたらなくなり、「疲れやすい」「息切れ」などの貧血症状が現れます。



昔から、ほうれん草には鉄が多いといわれていますが、実際には同じ青菜では小松菜の方が多く含まれています。また、植物性食品に含まれている鉄（非ヘム鉄）には、吸収されにくい性質があるので、ほうれん草だけでは鉄の摂取は十分とはいえません。動物性食品（レバーや魚介など）に多く含まれている鉄（ヘム鉄）もしっかり摂取したいものです。

鉄を多く含む食品

肉（特にレバー）、かつお、しじみ、あさり、大根の葉、小松菜、ほうれん草、ひじき、納豆など

健康アドバイス

「コレステロールの値」

常陸大宮済生会病院 内科・循環器科
田口 慎介先生

～食べ物に気を付けたり運動をしたりしてもコレステロールの値が下がらないのはなぜ？～

皆さんが実行されている食事、運動療法は適切なものでしょうか。今回は簡単ではありますが、外来診療で説明させていただいている内容をお話したいと思います。

（コレステロールを下げる食事）

動物性脂肪（バター・チーズ・生クリーム・肉の脂身・チョコレートなど）の摂取を控えてください。逆に植物性脂肪（オリーブ油）や魚類（いわし・さば・さんまなど）に含まれる不飽和脂肪酸はコレステロールを下げる作用があります。次に食物繊維を多く含む食材による食事を摂ってください。きのこ・海藻・豆・納豆・こんにゃく・野菜（特に、ごぼう・にんじん・おくら・エシャロットなど）は、LDLコレステロールを下げる働きがあります。

（コレステロールを下げる運動）

運動は、体内の脂質を燃焼し、LDLを下げる効果があります。LDLを下げる運動といっても、特別ハードな運動をする必要はありません。軽いウォーキング、ジョギング、水泳などの有酸素運動でも、十分効果があります。ただ、コレステロールを下げるためには、最低でも一定時間以上（20～30分程度）の運動を必要とし、週3回以上継続して行うことが大事です。

以上のような食事、運動療法を十分に行ってもLDLコレステロール値が改善されない時は、薬物療法が必要になってくるかと思います。適切な処方を受けてください。

このたびの「東北地方太平洋沖地震」により被害に遭われました皆様に、心からお見舞い申し上げます。

今回の震災は、わが国の観測史上最大となる地震で、東北から関東まで広範囲に未曾有の災害をもたらしました。

本市においては、地震発生後、直ちに災害対策本部を設置するとともに、市内の被害状況の収集に努め、自宅への帰宅が困難な方に、避難場所を提供しました。また、水道などライフラインの復旧に全力で当たるとともに、給水や炊き出しなどの救援対策を行いました。このようななか、自衛隊をはじめ関係自治体など多くの方々からご支援ご協力をいただきましたことを、改めてお礼申し上げます。

本市における人的な被害は現在まで報告されていませんが、多くの建物に被害が発生し、ブロック塀の倒壊や屋根瓦の落下なども市内広範囲に及んでいます。また、公共施設においても被害が発生しておりますが、市民の皆さまが一刻も早く安心して安全な生活ができる環境を取り戻しますよう全力を挙げて復旧に取り組んでおりますので、ご理解と協力をお願いいたします。

常陸大宮市長 三次 真一郎

物語の世界へ

2月16日、子育て広場で読み聞かせが行われました。

講師は、図書情報館等で活動している平島則子さん。絵本や紙芝居を使った読み聞かせの他、作品と作品の間に、歌を歌いながら遊戯を取り入れるなど、小さいお子さんが飽きてしまわないように工夫されたプログラムになっています。

平島さんの朗読に、子ども達はもちろん、お母さん達も物語の世界に引き込まれ、楽しいひと時を過ごしました。



下水道促進週間コンクールで知事賞入選

平成22年度茨城県下水道促進週間コンクールの絵画・ポスター部門に応募した美和小学校2年生大瀧唯斗くんの作品が、知事賞入選となり、2月21日県庁の講堂で表彰式が行われました。このコンクールは平成22年9月10日の下水道の日と茨城県下水道促進週間にちなみ行われたものです。

大瀧くんの作品は、県を通じて全国の小中学生を対象にした「下水道いろいろコンクール」に出品されます。



広報 常陸大宮 3月 第78号

発行日 平成23年4月11日

発行/常陸大宮市

編集/企画課

〒319-2292

茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp

URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/



平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」により被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

このたびの震災の影響により、広報常陸大宮3月号の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

常陸大宮市の人口(3月1日現在・推計常住者) 総人口44,882人 世帯数16,063世帯

※平成22年国勢調査の速報値が公表されましたので、3月1日からは、その数値を基に再集計しています。
男女別の人口については、今年10月に確定値として公表される予定です。